人のとなりに

松元（まつもと） 由香（ゆか）さん（38）

商品のパッケージデザインや住宅メーカーでの広報チラシ作成などの仕事を経て、平佐西地区の地域おこし協力隊として、同地区の歴史遺産お守り隊などの肩書を持ち活動する松元さん。

今回は、そんな異色の経歴ながら特技と技術を生かして地域を盛り上げようとする一人の協力隊員の思いに寄り添います。

「人のとなりに」とは…

文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージした新コーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

イラストデザインと事務経験が最大の強み

吹上町出身で宮崎県から本市へ地域おこし協力隊として赴任した松元さんは、学芸員の資格を持ちながら、イラストが得意という異色の人材。

企業のデザイン部門などの勤務を経て、本市の地域おこし協力隊募集で目にした平佐西地区の歴史遺産お守り隊のミッションに、興味を引かれ、飛び込んだのがそのきっかけです。

自らに課した使命は、何かあるけど何があるか分からない状況の解消

協力隊として赴任して地域の皆さんから聞いたのは、「何かあるけど何があるか分からない」という声。

松元さんは、歴史的に貴重な物や面白い物がある平佐西地区にあって、これは何とかせねばと一念発起し、文献をめくったり、有識者の元へ足を運んだり、まずは調べることから始めました。

そして、次は情報発信が必要だと自分が持っている最大の武器、イラストデザイン力を駆使して、自らの分身である「ユカりん」とともに、地域の魅力を発信するべく活動を開始したのです。

▲「覚えてもらいやすいように」とメディアに度々登場する松元さんの分身「ユカりん」は、平佐西地区コミ主事松下さんが命名。

自作のマップを配布して、昨年11月3日(火)に実施した平佐焼窯跡などを巡る「平佐西地区歴史さんぽ」では、広く参加者を募集しなかったものの、地域住民を中心にスタッフも含めて、予想をはるかに上回る105人が参加するという大盛況ぶり。別のイベント用に作成したマップは、地区コミュニティ協議会がクリアファイルとして製作するなど進化を遂げました。

「平佐西地区の歴史や文化に興味がある人はたくさんいる」そう手応えを感じた松元さんは、参加者の喜びの声も力に変え、それからも高齢者サロンでの講演や平佐西小学校におけるふるさと・コミュニケーション科での授業、さらにはコミュニティ協議会だよりでコラムを連載するなど、広く平佐西地区の歴史や素晴らしさを伝えてきました。

変わらないものがある

松元さんは言います。「この地区、このまちは、これからも川内川の堤防沿いが整備されたり、住宅が建ったり、人の動きとともに変わっていくと思いますが、変わらないものもある。その変わらないものや守るべきものを地域の皆さんと大事にしていきたいと思います。歴史や文化というものは、難しくてとっつきにくいと思われることが多いものですが、私のイラストや取り組みで、そのハードルを少しでも下げられたら。そして、『何かあるけど何があるか分からない』が、『何かあるよね』『あれは○○だよ』と地域の人同士がつながっていく、そんなきっかけになってくれることを想像しながら、日々活動しています」。

松元さんの活動は、まだまだ始まったばかりです。

▲ぽっちゃんブログでは、松元隊員を含め、市の協力隊員の活動がご覧いただけます。

次のページでは、今回、松元さんが執筆してくれた「深発見！さつませんだい歴史文化遺産」へと続きます。併せてお読みください。

深発見 歴史文化遺産

第四回 かつての平佐焼の里・平佐西地区皿山

～知り隊！平佐西出張編～

イラスト：松元由香

今回は、平佐西地区に残る平佐焼窯跡と平佐焼について、平佐西地区を担当する地域おこし協力隊の松元がご紹介します。

平佐焼は、江戸時代後期から昭和の始めまで作られていた焼き物の名称で、「皿山（さらやま）」という地名もそこから呼ばれたと思われます。平佐焼きの原料の陶石は天草から運ばれていました。

もともと、平佐郷白和の今井儀右衛門（いまいぎえもん）が阿久根市脇本で窯を開いていましたが資金難により閉じてしまいます。それを惜しんだのが北郷家の家臣・伊地知団右衛門（いじちだんえもん）でした。伊地知は、その時の平佐領主北郷久陣（ほんごうひさつら）に相談し、皿山に今井儀右衛門を呼び寄せて窯を開きました。

外見の特徴としては、やや青みがかった白磁に青い染付（そめつけ）で描かれたものが多く、赤絵（色絵）、べっ甲などさまざまな種類があり、慶応三年（一八六七）のパリ万国博覧会にも出品され、ヨーロッパで高い評価を得ました。

現在、平佐焼窯跡として残っているのは、平佐現窯と呼ばれる窯の跡です。市の文化財にも指定されていて、かつて皿山の地で栄えた平佐焼の名残を感じることができる場所となっています。

■文責・問合せ＝本庁文化課文化財G（内線5232）

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史・文化の中から、とっておきのトピックスをご紹介します。

VOL.6 防災トピックス

大雨・台風に備えて準備を

命を守るだけでなく生活を守るための準備も

このコーナーでは、防災に関する備えや避難時の注意など、日ごろから災害に備えるための情報をスポットで発信していきます。

災害発生から72時間が生死の境目と言われています。この3日間を生き延びるために準備するのが「命を守るアイテム」です。

体温を保ち、最低限の栄養や水分を取り、危険から身を守るためのグッズです。

しかし、4日目以降になったからといって生活が元に戻るわけではありません。東日本大震災では、電気の復旧までに7日間、水道やガスはさらに時間がかかったそうです。このような非日常の中でも元気をなくさず、少しでも日常に近い生活を送るためのグッズが「生活を守るアイテム」なのです。

命を守るアイテム例

- □ 水
- □ 非常食
- □ ヘルメット
- □ 懐中電灯
- □ 毛布

生活を守るアイテム例

- □ 簡易トイレ
- □ カセットコンロと鍋
- □ 嗜好品（しこうひん）
- □ 着替え　下着
- □ 除菌シート

また、必要な防災アイテムは家族それぞれです。家庭環境はそれぞれ異なります。赤ちゃんがいれば紙おむつやミルク、哺乳瓶なども必須です。小さな子どもがいれば気晴らしのおもちゃも欠かせません。

あなたの家族の中で「一番サポートが必要な人」を守ることを基準にして、準備をしていきましょう。

※新型コロナウイルス感染症対策として、①マスク②体温計③消毒液などもご準備ください。